

全校朝会講話 「お辞儀の使い分け」

全校のみなさん、おはようございます。

先週の生活目標は、「相手の目を見てあいさつしよう」というものでした。できましたか？朝、正門のところであいさつをしていると、とてもたくさんの方ができているように感じました。うれしいですね。

うれしいことは他にもあります。目を見てあいさつするだけでなく、とても自然にお辞儀ができている人が増えてきたことです。

今日は、あいさつをするときの3つのお辞儀の仕方について話します。（児童座る）

1つ目。今、この全校朝会のはじめにあいさつをしました。そのときのお辞儀は、ちょっと難しい言葉ですが、「語先後礼」と言って、まず「おはようございます」という言葉を言ってから、その後にお辞儀をするというものです。教室で担任の先生と交わす朝や帰りのあいさつ、授業の始めと終わりのあいさつもこの方法でやっていますね。このお辞儀の仕方は、少し改まった場でのていねいな動作と言われています。（教員2名による実演）

2つ目は、朝、正門のところであいさつをするようなときのお辞儀です。みんなは門の前まで来ると、まず校長先生や看護当番の先生と目を合わせて、「おはようございます」と言って礼をしますね。歩きながらの人もいますし、少し立ち止まってあいさつをする人もいます。お辞儀の深さも人それぞれです。いずれにしても、これは、言葉と同時に礼をするので、「同時礼」と言うそうです。生活の中では、このお辞儀がとても多いのではないのでしょうか。（教員2名による実演）

3つ目。言葉は難しいのですが、動作は簡単です。「会釈」というものです。これは、声は出しません。あいさつやお礼の言葉は、心の中で言います。目を合わせてからお辞儀をするだけです。これは、あまり大きな声を出せない場所で使うといいですね。また、廊下や階段ですれ違うすべての大人の人に声を出してあいさつすることは大変ですが、この方法なら無理なく気持ちを表すことができます。（教員2名による実演）

3つのお辞儀の仕方、どれも目を合わせて気持ちを届けることが大切です。頭を下げるという体の動きだけができて、心がこもっていなければ意味がありません。

また、どんなときにどの方法であいさつするのも重要です。特に、高学年の人はその判断がしっかりとできるはずです。ぜひ、下の学年の人に手本を示してください。

気持ちのよいあいさつを交わして、みんなが笑顔で過ごせる多聞小学校にしていきたいと思います。

これで、お話を終わります。